

令和 5 年 度

学 校 評 価 報 告 書
(後 期)



鬼 北 町 立 日 吉 中 学 校

令和 6 年 2 月 29 日

令和5年度 学校評価自己評価（後期）

鬼北町立日吉中学校

【評価基準】 A:そう思う B:どちらかといえばそう思う C:どちらかといえばそう思わない D:そう思わない

重点目標	評価項目	評定	評価資料の分析	考察(◇)及び改善方法(◆)
<p>確かな学力</p>	<p>① ICT機器を効果的に活用し、分かる授業を実践している。</p>	<p>A</p>	<p>○教師は、少人数指導の強みを生かして、生徒が学習内容を「わかった」「できた」と実感できるように、ICTを活用するタイミングを工夫して授業を行っている。 ○生徒は、落ち着いた雰囲気の中で授業を受け、ICTを活用した授業により、学習内容を概ね理解できている。</p>	<p>◇教師は、様々な研修会等でICTの活用法などを学び、それぞれの授業に活用することができた。 ◇生徒は、ICTを活用して授業や宿題を行うことが常態化してきた。これにより、意欲的に学習に取り組むことができ、学習内容の理解につながっている。</p>
	<p>② 基礎・基本を定着させ、学びに向かう力を育てている。</p>	<p>B</p>	<p>○学級委員会が家庭学習時間の調査を行い、それを見える化するなど新たな取組を行った。 ○自主学习ノートを活用するなど、宿題以外の学習をする手立てをとった。 ●生徒の家庭学習の様子を見て、宿題以外の家庭学習に取り組んでいると感じている保護者が、前期より少なくなった。(73%→64%)</p>	<p>◇基礎・基本の定着を目指して、各教科でドリル学習の実施や宿題の出し方の工夫など、新しい取組を行い、その成果が現れている面もある。 ◆生徒が自ら学習したいことを探し取り組むことや、保護者がその様子を把握することが十分ではなかった。各自の自主学习の工夫について他の生徒に発信する機会を設ける。</p>
	<p>③ じっくり考えて判断し、表現する力を育てている。</p>	<p>A</p>	<p>○それぞれの授業において、全ての生徒が発表したり、意見交換を行ったりする時間を確保するように取り組んでいる。 ○生徒は、2学期の様々な行事(運動会、音楽会、一人一研究発表会)において、自分で考えて表現することの充実感や達成感を味わうことができた。</p>	<p>◇教師主導で授業を行ったり、行事内容を考えたりするのではなく、生徒が主体となって行動できるような手だてや支援の工夫を行うことができた。 ◇一人一研究における新たな取組(ブース展示)では、地域の方や専門的な知識のある方と積極的に交流する機会を持つことができた。今後も様々な方と交流する機会を多くし、生徒が多様な考え方に触れ、表現する力を身に付けることができるように努める。</p>
<p>評価委員所見</p> <p>学校関係者</p>	<p>○授業参観や学校行事等で、教師主導でなく、生徒の主体性を重んじた指導の手立てや工夫を感じた。ICTを活用した授業に、教師も生徒もしっかりとなじんできているが、更にそのメリットを生かして行ってほしい。 ○よいと思います。生徒が少ないため、競争力がどうなのか？ ○訪問した際に、小学校6学年と中学校3学年の計9学年を、45分から50分で参観するのが難しく、評価しにくい面がある。 ○視覚中心の授業が主流の中、本から学ぶことの大切さも考えた。 ○日々の授業で、ICTを活用されている様子を見せてもらった。学習の記録(積み重ね)は保存できるのだろうか？宿題以外で自主学习するプログラムが必要だろうか？ ○学校や先生方にいろいろ工夫していただき、生徒の学力向上に取り組んでもらっていると感じます。 ○子供たちが考えて学習、行動されているのがよく分かります。目標や夢を掲げることで頑張る意味も分かると思うので、各家庭でそれを共有できるといいなと思います。 ○よくやられている。</p>	<p>対学 校 策 の</p>	<p>○教師は、ICTを活用することのよさと、従来通りに本やノートを用いて学習することのよさをバランスよく授業に取り入れ、生徒が主体的な学習を行いやすくなるように努める。 ○少人数のよさを最大限に生かし、生徒の実態把握に努める。その上で、習熟度に応じた指導を行うことを心掛ける。 ○今年度実施した、他校とのオンラインによる交流道徳授業や対面による合同授業は、本校生徒にとって実りの多い授業であった。生徒たちにとって、他校の生徒と共に学ぶことで得られるものは多い。そのため、来年度も今年度以上に積極的に交流活動を行っていきたい。 ○家庭学習については、生徒会や委員会が主体となって、生徒同士が学習の取組状況を伝え合うことのできる方法を工夫していく。 ○一人一研究のブース展示では、生徒自身が自らの研究成果を発表するために様々な工夫を行った。また、生徒が地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深めることにもつながった。今後もこの活動を継続していきたい。</p>	

重点目標	評価項目	評定	評価資料の分析	考察(◇)及び改善方法(◆)	
豊かな心	④地域の文化や自然を学校教育に生かしている。	A	○今年度の一人一研究では、それぞれの生徒が工夫して取り組むことができ、その充実度が評価につながっていた。 ○保護者も、生徒の学校生活の様子から、地域の文化や自然とのつながりを実感できていた。	◇教師は、生徒が地域素材を活用できるようなカリキュラムを組むことを心掛け、計画に沿って実施することができた。 ◇小中合同行事の実施や、地域の文化や自然と触れる機会を設けることを今後も継続していく。	
	⑤将来への展望を持つよう学校生活の充実に努めている。	A	○教師・保護者・生徒ともに数値が高い。高校進学やその後の進路について、それぞれの学年の特性や発達段階に応じた進路指導の表れだと考える。	◇各学年の特性に応じた指導を行うことで、中学校卒業後の進路について、それぞれの生徒が考えることができている。今後も、生徒が自分自身の将来の見通しについて考える機会を設ける。	
	⑥挨拶や時と場に応じた言動が身に付くようにしている。	A	○教師・保護者・生徒ともに、前期と同じく高い評価を維持できている。(教師100%、生徒91%、保護者100%)	◇学校生活や部活動を通して、言葉遣いや挨拶が身に付いてきている。 ◆時と場に応じた適切な声の大きさや言動について、継続的な指導に努める。	
<p>学校関係者 評価委員所見</p>	<p>○地域の文化や自然に接する場として、一人一研究は重要な活動であろう。今年度の発表会もすばらしい出来栄であった。これからも継続を期待している。 ○みんな素直でよいと思います。 ○草花を育てたり、地域のイベントの手伝いをしたりと、多くの人と接する機会が増えていくのはよいことです。 ○一人一研究では、グループ数が少ない中で優劣をつける必要があるのでしょうか。表彰するのであれば、内容に沿った名目で全てのグループにあげてほしい。 ○朝の挨拶はできているが、「さようなら」「こんにちは」ができない。必要ないのかもしれませんが…。 ○将来、何をしたいのかによって、高校、大学の進学先も変わる。 ○一人一研究の「満天レストラン」は、夢産地のメニューとなるもの、クラフトも販売できるものと、地域と密着した研究へ発展させてはどうか。 ○挨拶は、生徒から声を掛け、意識が高い。 ○少人数ですが、地域の方々との交流が多く、思いやりのある生徒がほとんどだと思います。 ○中学生の挨拶は、いつも笑顔で目を見て挨拶できているので気持ちいいです。これからも続けてほしいです。 ○小中合同行事では、小学生の子供たちに優しく接していて感心します。 ○良好です。</p>			<p>対学 応校 策の</p>	<p>○郷土学や総合的な学習の時間では、地域の方々との交流を通して、地域の文化や自然について多くのことを学ぶことができた。今後も、生徒の豊かな人間性や社会性を育むため、より多くの交流や体験活動を推進していく。 ○挨拶については、概ね良好な状態にある。今後も、家庭や地域との連携を図り、地域での気持ちのよい挨拶の実践に努める。 ○生徒が将来への展望を持つためには、様々な体験活動を通して、自らの学習状況や活動を見通したり振り返ったりできる機会を多く取り入れるように努めていく。 ○一人一研究の表彰については、賞(1位)が励みになっているので継続してほしいという生徒の意見が多い。中学生なので、競い合う視点も必要かと考える。御意見をいただいたことを元に再検討したい。また、研究推進については、生徒が決定する研究テーマによるところはあがるが、地場産業の発展という視点も持って助言していきたい。</p>

重点目標	評価項目	評定	評価資料の分析	考察(◇)及び改善方法(◆)	
健やかな体	⑦「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣化を図っている。	B	○教師は、学級指導や保健だよりによる啓発などを通して、習慣が身に付くような指導を行っていると考えている。 ●生徒及び保護者は、前期と同様に十分ではないと感じている割合が高い。	◆学校では、学級担任や養護教諭が中心となって、継続的な指導を心掛ける。 ◆家庭の様子を把握することや指導や声掛けのきっかけとなるようなチェックシートを作成し、生徒自身が自らを振り返ることができるような手だてをとる。また、保護者がその様子を確認できるようなシートの作成に努める。	
	⑧体力や運動技能の向上への取組を実践している。	A	○教師・保護者・生徒ともに高い評価を得ている。 ○部活動の取組を中心として、生徒・保護者が体力向上につながっていると感じている。	◇生徒が積極的に部活動に参加することで、体力向上に努めることができています。 ◇生徒自身が全校遊びを計画し、体力向上と仲間づくりを前向きに行おうとしている。この生徒の自主性を今後も見守るとともに、適切な助言を行うことに努める。	
	⑨自尊感情や自己肯定感を育てている。	A	○教師や保護者は、前期と同様に、生徒のよさを認めることに努めていると実感している。 ○生徒は前期の評価から数値が大きく増加した。(73%→91%)	◇2学期の様々な行事(運動会、音楽会、一人一研究発表会)において、生徒一人一人が自分のよさを発揮する場面が多く、それを自他ともに認め合うことができていた。 ◆生徒が自分のよさや強みを発揮できる場の設定と、教育相談や日々の声掛けによる励ましを行ったりすることに努める。	
評価委員所見 学校関係者	○生徒数が減少する中では、一人一人の存在が大きく、その期待に応えようと日吉中生はよく頑張っている。生徒たちを輝かせようと教師の目がよく届いている。 ○大変難しい状況であると思う。 ○「医食同源」の言葉があるように、食は大事です。 ○成長期における朝食の大切さ、実践できる保護者への啓発方法の検討が必要では？(小児科医、内科医、カウンセラー等による研修など) ○部活動以外のスポーツはしますか？ ○YouTube、ゲーム等で長時間遊び、体調を崩すことがないよう、三者面談が必要では。(何時以降は親が預かる決まり) ○出番が多く、成功体験が豊富なため、自尊感情が高まってきた。先生方が、生徒一人一人を大切に、生かされている指導の賜物です。 ○規則正しい生活は、家庭環境も大切だと思う。 ○1日のリズムはしっかりと睡眠からだと思うので、家庭での生活リズムに注意できるようになればいいなと思います。 ○よく取り組まれています。		対学 応校 策の	○部活動を中心に体力や技能の向上に努めているが、その他にも、保健体育科の授業に意欲的に取り組んだり、全校生徒が参加して昼休みにスポーツ活動を行ったりしている。全校生徒が仲良く協力する場の設定を、今後も継続していきたい。 ○今年度は、小中連携の行事を通して、中学生がリーダーとなる場面が多くあった。その中で生徒は大きく成長するとともに、自尊感情や自己肯定感を育成することにつながった。今後も、生徒主体で活動する場面を多く設定することに努める。 ○学校行事や体験活動を通して、生徒が満足感や達成感を味わうことができるように、学校・家庭・地域が連携して生徒に関わっていく。 ○家庭との連携が必要な項目については、保護者と話し合ったり、親子で講演を聞く機会を作ったりするなどして、学校と家庭が連携していく。今年度は、2月末に講師を招いて「思春期教室」を開き、ゲームやSNSを心の底から楽しむには、健康な心と体、コミュニケーション、達成感の調和が大切であることを学んだ。今後は、機会を捉えて保護者への案内もしていきたい。	

重点目標	評価項目	評定	評価資料の分析	考察(◇)及び改善方法(◆)
学校・家庭・地域の連携	⑩学校は教育活動についての情報を発信している。	A	○教師・保護者・生徒の数値は、いずれも高い水準である。 ○各種通信の定期的な発行は、今年度実施した地域アンケートにおいても評価されていた。	◇各種通信の発行やホームページの更新、ケーブルテレビの活用などの多様な情報発信を、今後も継続して行う。 ◇学校行事等の案内を、1か月前を目途に発送することを心掛け、保護者や地域への情報発信に努めた。今後も、適切な時期に情報発信することを継続していく。
	⑪行事等が適切に設定され、保護者が参加できている。	A	○教師・保護者・生徒ともに高い評価を得ている。 ○天候や感染症の心配もなく、計画通りに行事等が実施できたことが評価にも影響している。	◇生徒は、2学期の様々な学校行事に意欲的に取り組むことで充実感を味わった。また、教師は、行事の内容がよりよいものになるよう、工夫や提言を行うことができた。 ◆保護者や地域の方が参加しやすい行事となるよう、今後も適切な実施時期などに配慮する。
	⑫安心・安全な教育環境づくりに努めている。	A	○教師・保護者・生徒ともに高い評価を得ている。 ○教師は、月1回の安全点検を丁寧に行い、生徒が安心して学校生活を送ることができるように心掛けている。	◇施設・整備面で気になる箇所をピックアップし、可能なところから修繕を行うことができた。 ◆生徒や教職員が、安全・安心な学校生活を送ることができるよう、日頃から施設・設備の安全点検を行うとともに情報の収集に努める。
評価委員所見 学校関係者	<p>○2月の参観日に、「2年生誓いの会」を参観した。生徒の意見発表は、それぞれに内容のあるものだった。このような行事の公開はこれまでにない取組であり、生徒の一面をより深く知る機会となった。</p> <p>○生徒数が少なくなったが、地域の人々も少なくなっており、普段の通学(帰り)等に地域の人々の目が少なく思う。</p> <p>○全ての項目において教師の達成率が100%という結果はすばらしい。頭が下がります。その成果が、保護者や生徒に反映されることを望みます。</p> <p>○学級通信、学校だより等は、生徒の活動や先生の考えが分かりやすい。発行部数が多い。</p> <p>○裏山が急傾斜地のため、地震や洪水の対策を。</p> <p>○いろいろな形で情報発信していただいているので、地域の方々も多方面で協力してもらっていると感じます。</p> <p>○生徒数が少ないながらもいろいろな行事を工夫されているのを、ホームページやU-CATで見ます。連携された教育活動だと思います。</p> <p>○良好。</p>		対学 応校 策の	<p>○学校運営協議会でいただいた意見で実現可能なものから積極的に取り入れ、よりよい教育環境づくりに努める。</p> <p>○情報発信については、学校だよりやホームページを積極的に活用することを、今後も継続していく。また、ケーブルテレビでの情報提供が有効な手段であることから、今後も引き続き取材、放映を依頼していきたい。</p> <p>○家庭や地域の方が、学校行事や活動の様子を直接参観していただく機会を増やす工夫をしていく。</p> <p>○地域コーディネーターと連携・協力し、地域との交流を深める機会を設けていく。</p>